

都小道研だより 第 1 号

所信「一人一人にとってのよりよく」を目指して

会長 吉田 友信

1 令和 7 年度 都小道研役員・理事について

会 長	吉 田 友 信	(江戸川・南小岩小)	副会長	星 野 典 靖	(昭島・田中小)
副会長	宮 本 知 司	(江戸川・上小岩小)	副会長	浮ヶ谷 優 美	(杉並・八成小)
会 計	鈴 木 裕 子	(八王子・由木東小)	総 務	由 良 隆	(墨田・二葉小)
庶 務	平 野 真由美	(渋谷・加計塚小)	渉 外	椿 田 克 之	(練馬・開進第二小)
調 査	松 井 良	(青梅・第五小)	研 究	関 祐 一	(練馬・豊溪小)
研 修	土生津 静	(足立・花保小)	実 践	山 岸 史 子	(練馬・泉新小)
広 報	藤 山 由 仁	(中央・月島第一小)			

2 令和 7 年度 「一人一人にとってのよりよく」を求めて

- 人にはそれぞれ、一人一人違ったよさや可能性があります。にもかかわらず、つい他人（ひと）と比べたがるのは人間の性でしょうか。それとも、集団や社会の中で生きていく中で自然と身につけてしまう性行なののでしょうか。私は他と比べること程、無意味で無駄、虚しい（3M）ことはないと強く考えています。むしろ、強い嫌悪感を覚えてしまう程です。なぜなら、他人（ひと）と比べて「自分は劣っている」と劣等感をもったり自己肯定感を下げたりする必要はないと考えます。「あの人より、自分はました。」と優越感をもったり謙虚さを失ったりすることも、「以ての外」とも考えています。

理想とする姿は、その時々で「自分は自分」という自己理解の基に、児童が「人」「集団や社会」「生命や自然、崇高なもの」との関わりを通して、自己の生き方を考え主体的な判断ができるようにすることです。そして、「人生いかに生きるべきか」という生き方の問いを考える時間を創造し、積み重ねることによりその個人の人生をより豊かで重要なものにしていくものと確信しています。

道徳科の時間は、教材の世界に自己を投影し、自己を見つめたり、振り返ったりしながら考えを広めたり深めたりする時間です。特に、展開の後段で、児童が自己を見つめたり振り返ったりする段階においては、他人（ひと）と比べることを主眼に置くのではなく、「一人一人にとってのよりよく」を模索し、方向性を見付ける時間となります。その際、児童がよりよく生きようとする願いに応えるため、教師は児童と共に考え、共に探求していくことが不可欠であることは言うまでもありません。

令和 7 年度もこのような尊い営みが、東京都内各校で 1 時間でも多く実践され、道徳教育のより一層の充実のためにできることを都小道研の総力を結集して行う所存です。引き続き、本年度も、文部科学省、全小道研、関小道研、都中道研、顧問・OB 会等の皆様からのご支援とご指導を賜りながら、役員・理事・部員が一致団結し、力強く邁進して参ります。

本年度も 1 年間、都小道研へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。